

野菜畑作生産情報 第6号（要約版）

平成29年9月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎小麦は適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！
◎病害虫防除や、台風等大雨に備えて排水対策を徹底しましょう！

○大豆

- 1 生育は、稔実莢数が少なめとなっており、平年並から下回っている。
- 2 台風や大雨などでほ場に滞水しないよう、排水対策を徹底する。
- 3 汚粒の原因となる雑草や青立ち株を収穫前に抜き取るとともに、適期収穫に向けコンバインなどの準備を進める。

○小麦

- 1 紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。
- 2 明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- 3 は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育量を確保する。

○ながいも

- 1 生育は、平年を下回っている。
- 2 葉渋病、炭疽病、ナガイモコガの発生が見られる。
- 3 今後のいも肥大に重要な茎葉を確保するため、病害虫防除に努める。
- 3 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
- 4 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- 5 植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

○にんにく

- 1 植付作業は、気象情報を参考に遅れないよう計画的に進める。
- 2 黒腐菌核病やチューリップサビダニ等の病害虫防除のため、必ず種子消毒を行い、被害種子は絶対に植付けしない。

○秋冬だいこん

- 1 生育は、平年を下回っている。
- 2 白さび病、キスジノミハムシ、アブラムシ類等の病害虫の早期発見・早期防除に努める。

○秋にんじん

- 1 生育は、平年を上回っている。
- 2 黒葉枯病、ヨトウムシの早期発見・早期防除に努めるとともに、試し掘りを行い、適期に収穫する。

○ごぼう

- 1 生育は、病害の発生等により平年を下回っているが、新葉が展開してきており、回復傾向である。
- 2 黒斑細菌病などの防除に努める。

○夏秋トマト

- 1 生育は、津軽地域では10～11段果房の収穫期で平年並、県南地域では7～8段果房の収穫期で遅れ気味となっている。
- 2 全体的に小玉傾向で、出荷量は減少している。
- 3 9月下旬以降は、裂果防止のため、かん水を控え、追肥は中止する。
- 4 灰色かび病、葉かび病、コナジラミ類等の病虫害の防除を徹底する。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
 - 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
 - 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
 - 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！
-

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。



報道機関用提供資料（連絡先）	
担当課	農産園芸課
担当者	野菜・畑作物振興グループ 井澤 主査
電話番号	直通 017-734-9481 内線 5078
報道監	農林水産部 田中 農商工連携推進監（次長） 内線 4966